

2020年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2021年 3月15日

学校法人聖十字学園

幼保連携型認定こども園聖十字幼稚園

1. 本園の教育目標

愛のうちに喜びをもって生き、自分の力で発見し、造り出しつつ、みんなと共に伸びゆく子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 「保育部」と「教育部」の保育教諭同士が互いの保育・教育に関心を持ち、連携の可能性を探る。
- ② 2号認定こどもの急増に伴い、保育時間の長時間化に対応した園生活の流れを工夫し、実践する。
- ③ 就労する母親が増加していく現状に合わせ、「保護者会」の役員・行事などの負担軽減を図る。

3. 教育・保育面での評価項目の達成及び取り組み状況

(A…達成した B…おおむね達成した C…どちらともいえない D…改善が必要である)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	B	本園の教育方針やキリスト教保育精神に基づいた年間計画等の編成
2	保育のあり方、乳幼児への対応	B	乳幼児の発達理解に基づいた保育、主体的対話的生活や活動の展開が課題
3	保育者としての資質と能力	A	乳幼児の利益を最優先する保育教諭であると時折軌道修正しながら意識
4	保護者への対応	A	園での様子を口頭・電話・HP・クラス便り・連絡帳等で伝えるよう努力
5	地域の自然や社会との関わり	B	新型コロナウイルス対応で地域との交流事業が中止となり親子教室開催も困難だった
6	研修と研究	B	コロナ禍にあって園外研修は殆んど参加できなかったが、園内研修を増加

4. 総合的な評価結果評価

(A…達成した B…おおむね達成した C…どちらともいえない D…改善が必要である)

評価	理由
B	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の動きに対応するため、想定外の状況にどう向き合うかに力を注いだ。年度初めに1号認定こどもが2ヶ月間臨時休園となり、その後通常保育再開の日を迎えたが、子どもたちの園生活の様子と成長は例年と大差なかった。また、感染拡大を防ぐため園外研修の機会が無くなったため、代わりに園内研修(テキスト:幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針)通して相互に学び合う時間を設けた。振り返ってみると、このような状況にあって子どもたちの利益のためにできることは何かを手探りしつつ、乳幼児教育・保育の原点に戻って見直すきっかけを与えられた一年だったと感じている。やむを得ない事情で思うようにいかない部分もあった今年度の教育・保育ではあったが、さまざまな制約の中で職員が協力し合い、努力したことを評価したい。

5. 今年度の重点目標・計画に関する評価結果

- ① 「保育部」と「教育部」の保育教諭同士が互いの保育・教育に関心を持ち、連携の可能性を探る。
 - ☐ 行事や活動の担当者を「保育部」「教育部」の両方から出すようにしたことにより、情報交換が増えた。これまで話したことがあまりなかった職員同士も、名前で呼び合える関係になったと思う。来年度も継続することによって更に互いを知ることができ、この雰囲気子どもにも波及し、本園がひとつになっていく環境づくりにもつながることと期待する。
- ② 2号認定こどもの急増に伴い、保育時間の長時間化に対応した園生活の流れを工夫し、実践する。
 - ☐ 午睡布団置き場作りから始まり、余裕スペースの無い本園の状況の中ではコロナ禍にあって密を防ぐ対策は困難だった。また、標準保育利用者の増加に伴い、保育補助員の求人を出し続けているが、応募につながっていないのが現状である。今後も保育者の負担軽減に努めたい。
- ③ 就労する母親が増加していく現状に合わせ、「保護者会」の役員・行事などの負担軽減を図る。
 - ☐ 保護者会会長はじめ役員により、徐々に負担軽減の方向性ができつつある。同時に、コロナ禍で役員活動と行事を縮小せざるを得なかったのは、この方向性にプラスに働いたとも言える。今後も家庭と園の協調関係を重視しつつ、保護者が子育てを楽しむ雰囲気づくりに努めたいと思う。

6.今後取り組む課題

	評価項目と課題	具体的な取り組み方法
1	保育の計画性	園長が編成する「全体的な計画」の見直しと全保育者への配布
2	保育のあり方、乳幼児への対応	互いを認め合う事を目的に、保育実践に関わる園内研修を行う
3	保育者としての資質と能力	まず自分自身が主体的に考え、行動する意識を持つよう努める
4	保護者への対応	公平に、園生活の様子を小出しに伝える表現力を身につける
5	地域の自然や社会との関わり	自然界を通して季節感を味わう。自然を大切にしたい気持ちを強め、環境問題にも関心が向けられるよう生活の中で触れる
6	研修と研究	保育者自らが具体的に課題を見出し、その課題を克服しようとして研修の機会を得る

6.学校関係者評価委員会の評価

1. 2020年度事業報告に関して

- ・ 新型コロナウイルス対策のため、行事など十分な形で実施できない中で、様々な工夫と気遣いをされていることがわかります。この状況がどれだけ続くかわからない中で、気苦労が重なるとは思いますが、園児たちが楽しく過ごせるよう配慮願えればと思います。
- ・ 新型コロナウイルス対策には、ご苦労があったと感じます。一年の終わりを無事迎えられますこと、安心致します。

2. 2020年度自己評価結果に関して

- ・ 安全安心への配慮が何重にもなされていて素晴らしいと思います。
- ・ 保育教諭各々の自覚と取り組む姿勢を感じることができます。それぞれのご苦労、努力もあることと思います。日々の労をねぎらい、応援しております。
- ・ 自己評価や取りまとめがあることで次につながる意識が必ず芽生えると思うので、結果でなくこれからがさらに楽しみです。

3. 2020年度保護者アンケート結果に関して

- ・ 来年度もいろいろと工夫を凝らしてコロナ禍を乗り越えてほしいと思います。
- ・ 不満の内容を検討していただき（中には保護者のわがまま、無理解もあると思われるので）改善できる点を改善していただければと思います。
- ・ 保護者の皆さまがほぼ満足と感じる結果は、園児においても活動や生活が満たされていることと推察できることでしょう。
- ・ 様々な考え方の保護者がいらっしゃる中でこの内容なら優良ではないかと思います。アンケートをとってくださることが大切かと思います。

4. 2021年度事業計画に関して

- ・ 幼保現場におけるマスク着用の功罪がしばしば話題になります。専門家の見地から研究を深めていただければ参考になります。
- ・ 新型コロナウイルス対策に神経を使われると思いますが、園児たちが伸び伸びと過ごせるよう工夫していただきたいと思います。
- ・ 非日常的な出来事・状況に対応し、滞りなく遂行できますように期待します。